

## 米中関係と台湾海峡

東京大学東洋文化研究所

准教授 佐橋 亮

### 1 トランプからバイデン：対中競争戦略の踏襲と差異

- 固定化された米中対立 放棄された関与政策、焦点となる対中経済規制、米国内の経済体制作り
  - 同時に追求される安定 衝突回避、部分的な協調の模索 「3つのC」 →繰り返される対中接触
  - 同盟・パートナー重視 続々と立ち上がる新しいメカニズム  
例：QUAD, AUKUS, TTC
  - 中間層のための外交 産業政策と国内産業の保護・育成
  - 人権重視姿勢 目的であると同時に手段として
- 22年は米側の資本規制／輸入規制の強化と中国からの報復に注目

### 2 米国の台湾情勢認識、米台関係の強化

- 重層化した米国の台湾認識
  1. 戦略的重要性／同盟国への信頼性
  2. 民主主義のモデル
  3. サプライ・チェーンにおけるチョークポイント
  4. 中国大陸からの圧力に立ち向かう試金石
- 遠慮がなくなった米台交流
  1. 自主規制の撤廃
- 米軍・日米同盟の備え、慫慂される台湾の国防努力
  1. 解放軍にとっての2027年
  2. 「岩のように堅い」「台湾の将来が、台湾に住む人々の希望と最善の利益に基づいて平和的に決定される環境を確保する」
- 同時に追求される、中国との関係管理
  1. 「一つの中国」政策、「戦略的曖昧さ」は維持
- 米台関係の急展開はあるか？または台湾から手を引きことはあり得るか？

### 3 ロシアのウクライナ侵攻の含意

- 2月前半：中国専念論（「1つの戦争」論） v.s. 伝統的な中露重視論
- ロシア侵攻発生後 →中国にとって有利なポジション、米国は中国を軽視できず
- 大国間の安定が崩れたあと、安定か正義か、アレンジメントかルールか、それが問われている  
→今回の侵略行為の「終わり方」が国際秩序の性格を決める
- 秩序の弛緩、米国一国での力の限界を見すえたうえで、日本の安全保障は議論されるべき